

ピースツーリズムの円滑な推進に向けて【資料編】

～ピースツーリズム推進懇談会 とりまとめ（案）～

平成30年（2018年）1月26日

ピースツーリズム推進懇談会

目次

ピースツーリズム推進懇談会について	3
ヒアリング調査結果	
1 ヒアリング対象	5
2 意見	10
市議会意見	14
懇談会等から提案のあった平和に関連する場所の概要	15
ルート案の現地調査結果	19

ピースツーリズム推進懇談会について

本市を訪れた外国人旅行者に平和への思いを共有していただくには、市内の主要な平和関連施設等を効果的かつ円滑に周遊していただく必要があることから、平和・原爆関係や観光関係の団体の代表者等から意見を聴き、ピースツーリズムの円滑な推進を図る

〔委員構成〕

分野	所 属	職 氏 名
平和	広島県原爆被害者団体協議会	事務局長 前田 耕一郎
	広島市立大学広島平和研究所	副所長 水本 和実
	特定非営利活動法人ANT-Hiroshima	理事長 渡部 朋子
	特定非営利活動法人ひろしまジン大学	代表理事 平尾 順平
	被爆体験証言者 (平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事)	原田 浩
観光	一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局	事務局長 辻 孝和
	ひろしま通訳・ガイド協会	会長 古谷 章子
行政	広島市市民局国際平和推進部	部長 津村 浩
	広島市経済観光局観光政策部	部長 阪谷 幸春

〔設置時期〕

平成29年6月

〔ピースツーリズム推進懇談会開催状況等〕

開催日	内容	
平成29年6月16日(金)	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市が今年度取り組む「ピースツーリズム推進事業」概要を共有 ・外国人旅行者等を対象に「平和」をテーマとしたルート設定等に取り組むことへの思い ・外国人旅行者等に巡ってもらい、広島を思いを共有していただける平和関連施設等の提案
平成29年7月31日(月)	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回懇談会の意見・提案を踏まえたピースツーリズム推進の「目指す姿の方向性」と「今後の検討の方向性」の各案への意見 ・第1回懇談会以降に思いついた施設や場所(「場」)の提案 ・懇談会委員以外の関係機関等へのヒアリング・インタビュー調査先への意見等
平成29年9月11日(月)	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピースツーリズム推進の「目指す姿の方向性」と「今後の検討の方向性」についての意見 ・具体的な検討内容についての意見 (情報発信・ルート設定等・迎える市民の積極的な関与)
平成29年10月31日(火)	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピースツーリズム推進の「目指す姿の方向性」と「今後の検討の方向性」についての意見 ・具体的な検討内容についての意見 (情報発信・丁寧な案内を提供する環境づくり(ルート設定等)・迎える市民の積極的な関与) ・ピースツーリズム推進にあたっての配慮・対応が必要な事項についての意見
平成29年11月24日(金)	現地調査 A	めいぐる〜ぶによるルートの現地調査
平成29年11月28日(火)	現地調査 B	自転車によるルートの現地調査
平成29年11月29日(水)	現地調査 C	徒歩によるルートの現地調査
平成29年12月1日(金)	現地調査 D	徒歩によるルートの現地調査
平成29年12月19日(火)	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・「目指す姿」と「目指す姿に向けた取組方針と取組概要」の確認 ・具体的な検討内容についての意見 (情報発信・丁寧な案内を提供する環境づくり(ルート設定等)・迎える市民の積極的な関与) ・ピースツーリズム推進にあたっての配慮・対応が必要な事項についての意見
平成30年1月26日(金)	第6回	懇談会意見のとりまとめ案についての意見等
平成30年2月8日(木)	第7回	懇談会意見のとりまとめについての意見等

ヒアリング調査

ピースツーリズム推進事業に資する意見や提案などを、幅広くいただくことを目的に、外国人在住者、ゲストハウス、平和・原爆関係の団体、行政機関、地元関係団体、専門家・有識者、観光関係・旅行会社等を対象に、ヒアリング調査を実施

1 ヒアリング対象(計28名)

〈ゲストハウス・外国人在住者等〉

組織名称等	ヒアリング 対応者	概要
88house Hiroshima	オーナー 桃田 憲吾	昭和51年(1976年)に建てられた平家を改装し、平成26年(2014年)から東区馬木でゲストハウスを運営している。
広島ゲストハウス縁	取締役 佐藤 亮太 代表 正垣 紅 亭主 爲政 伸彦	平成29年(2017年)6月から横川商店街でゲストハウスを運営している。ビルの1階がBar、2階が宿泊施設。将来、旅行業の免許を取得し、着地型旅行商品の販売も行う予定である。
NPO法人ピースカルチャービレッジ (前広島平和文化センター 理事長)	代表理事 スティーブン・リーパー	豊かさを問う交流の場として三次市甲奴町に「ピースカルチャービレッジ」(平和文化村)を開設。国内外から若者を招き、国際社会で持続可能な生活を実践するモデルとなることを目指している。
GetHiroshima (広島経済大学 助教)	編集長 ポール・ウォルシュ	平成12年(2000年)にウェブ情報誌「GetHiroshima.com」を立ち上げる。大学講師を生業としつつ、インターネットを利用してコミュニティー作りを実践している。

〈平和・原爆関係の団体等〉

組織名称等	ヒアリング 対応者	概要
平和のためのヒロシマ通訳者グループ	代表 小倉 桂子	平和記念公園等での英語によるガイドや、英語による被爆体験証言、被爆体験の通訳などを実施している。
株式会社 中国新聞社 ヒロシマ平和メディアセンター	センター長 岩崎 誠	原爆・平和報道の蓄積や経験を基に、ウェブサイトと、朝刊に毎週掲載する「平和」のページにおいて、核兵器廃絶を目指して情報発信を行っている。
Peace Porter Project (広島市の被爆体験伝承者第1期生)	代表 保田 麻友	平和記念公園を訪れることが困難な被爆者等を対象に、青年ボランティアが8月6日に「とうろう」の代理で流灯することによる、被爆体験の継承とヒロシマを知るきっかけづくりに取り組んでいる。
NPO法人これからの学びネットワーク	代表理事 堀江 清二	持続可能な社会をつくるために、複数の分野のテーマを総合的に学ぶことができる参加体験型の学びの場を企画運営しており、その一つとして、平和学習支援事業「ピースクリエイターになろう」を実施している。
公益財団法人広島Y M C A	事務局長 中奥 岳生	社会教育団体・国際ボランティア団体として、青少年育成、ボランティア活動の推進、平和推進や国際交流・協力などを行っている。
Social Book Café 八チドリ舎	店主 安彦 恵理香 スタッフ 瀬戸 麻由	平成29年(2017年)7月から、ブックカフェ「八チドリ舎」を運営し、「被爆地ヒロシマ」を訪れる人達と、社会のことを気兼ねなく語り合える場所づくりを推進している。

〈行政機関等〉

組織名称	ヒアリング 対応者	概要
国連訓練調査研究所（ユニター ル）広島事務所	所長 隈元美穂子	平成15年(2003年)7月に開設され、主に紛争後の復興や世界遺産、安全保障に関する研修を実施している。
広島県 平和推進プロジェクト・チ ーム	担当課長 下崎 正浩	核兵器のない平和な国際社会を実現するため、核兵器廃絶のプロセスや復興・平和構築などの分野において、世界の中の広島として果たすべき使命と役割などを明記した「国際平和拠点ひろしま構想」を策定した。
公益財団法人広島平和文化セン ター	常務理事 岩崎 静二	広島の被爆体験を根底に据え、世界平和の推進と人類の福祉の増進に寄与することを目的として、幅広く平和推進及び国際交流・協力のための諸事業に取り組んでいる。
広島城	主任学芸員 秋政 久裕	天正17年(1589年)毛利輝元が築城。明治時代、城内には軍事関連施設が集積し、日清戦争時には大本営も設置された。天守閣は原爆で倒壊後、昭和33年(1958年)に再建され、内部は武家文化を中心とした歴史博物館となっている。敷地内には、中国軍管区司令部跡や被爆樹木がある。
広島市郷土資料館	学芸員 村上 宣昭	明治44年(1911年)に宇品陸軍糧秣支廠缶詰工場として建設された。原爆により鋼鉄製の垂木が折れ曲がるなどの被害を受けた。昭和60年(1985年)5月に広島市郷土資料館として開館した。

〈地元関係団体等〉

組織名称等	ヒアリング 対応者	概要
NPO法人セトラひろしま	理事長 若狭 利康	市民と商店街が連携したまちづくりNPOとして、市民の知恵や力、人材を積極的に取り入れながら、各種イベントの開催や文化振興、公共空間の美化や緑の環境づくりなど、広島を中心部でまちづくり活動を展開している。
広島青年会議所 市民パワー躍動委員会	委員長 田中 浩一郎	郷土を愛する市民を創出し、まちづくりの行動力を推進するための事業として、郷土愛サイクリングロード作成等に取り組んでいる。
ヒロシマピースボランティア	代表 橋 光生	平和記念資料館内の展示解説や、平和記念公園内を一緒に歩きながら解説を行っている。
広島市観光ボランティアガイド協会	幹事 米田 啓治	平和記念公園、広島城、縮景園、旧日本銀行広島支店などの観光案内活動を実施している。
広島市観光ホテル旅館組合	理事長 高田 秀穂	広島の宿泊施設で構成され、広島駅南口地下での案内窓口の運営などを行っている。
広島の宿 相生	女将 小田 富貴子	原爆ドーム東隣の旅館で修学旅行生の平和学習、体験学習を実施している。
公共交通事業者 (外国人周遊向け)	中国JRバス株式会社 運輸部 運輸課 渡瀬 千博	外国人旅行者が多く利用する「めいぷる〜ぷ」を運行している。
公共交通事業者 (修学旅行等向け)	広島電鉄株式会社(広島 観光コンベンションビューロー へ出向) 佐伯 一夫	旅行者が利用する路面電車、バス等を運行している

〈専門家・有識者等〉

組織名称	ヒアリング 対応者	概要
国立大学法人 広島大学大学院 総合科学 研究科	教授 フク・カロリン ゼミ生 9名	専門分野は「観光地理学」。地理学の視点から観光を見る。観光地の発展、観光地が発展することで生じる問題、持続可能な観光を中心とした研究を作っている。
公立大学法人 県立広島大学 看護学科	准教授 狩谷 明美	老年学、老年看護学、医療倫理学、看護教育等を専門とする。ユニバーサルデザインの観点からの研究実績も有する。
公益社団法人 広島市身体障害者福祉団体 連合会	事務局長 岡下 卓二	広島市内に居住する身体障害者の自立を促進し、文化、体育等の向上を目指し、社会参加と平等の基本理念に基づく福祉の推進を図り、社会の発展に寄与することを目的に活動している。

〈観光関係・旅行会社等〉

組織名称	ヒアリング 対応者	概要
J T Bグローバルマーケティング &トラベル	レジャー事業ユニット 業務部業務管理一課 訪日教育旅行担当 川崎 裕季菜 平野 遊大	JTBグループのグローバルビジネスを担う企業。企業に対するアジアのMICEソリューション、訪日マーケットに対する付加価値型旅行、外国人向けパッケージツアーの造成・販促、富裕層マーケットに特化した営業等を行っている。
ジェイティビー 国内事業本部	法人事業部 観光戦略担当部長 矢吹 伸幸 観光戦略担当マネージャー 徳政 由美子	JTBグループ本社に設置された部署。JTBグループの観光戦略を担う。

2 意見

▷ 伝える内容

具体的な内容	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none">・原爆ドームの保存までの経緯や、原爆の子の像の建立の経緯などの情報を伝える。・原爆によって、いかに不条理に命が奪われたかが分かるような伝え方をする。・過去の実相ばかりでは、若い人には昔のこととして伝わってしまう。平和について自分とつなげて考えるような現代的な視点も加える。・広島復興の話はキレイ過ぎる。復興がどれだけ大変だったか、復興の中でどんな問題があったかも伝える。見事に復興したという話では、広島被害は大したことがなかった、原爆を落としても良いということになってしまう。・人類史上最初の被爆地であるという実態を学ぶとともに、原爆投下の直前まで市民の暮らしがあったことを知らせる。・広島城の再建は、復興のシンボルとして市民の誇りであった。広島城を、武家文化や城郭建築の視点だけではなく、戦前・戦後のことや、関わった人々の歴史の事実を伝承してゆく場所としていく。・核兵器の脅威、戦争による市民の被害の実相、復興、そして現在の被爆者の苦悩等をしっかり伝える。・市がどのように平和のための取組をしているのかを伝える。・第二次世界大戦では、海外でも悲惨な状況があったので、広島がどれだけ悲惨だったということばかり説明しても、外国人と思いを共有できない。・短時間の滞在でもノーモアヒロシマの思いを持ってもらえればよい、来訪者数の増減には一喜一憂しないという考え方もある。・大久野島や海軍兵学校について、ドイツ・ニュルンベルク収容所のように、当時の様子を語り、創造的平和構築の担い手の人材育成をする。	<ul style="list-style-type: none">・そこにある被爆建造物等のみに意識を向け過ぎないこと。広島街全体が被害の場所であり、様々な道路やスポットに被爆者らが伝え続けてきた被爆体験の背景があるということも伝えていくべきである。・昔の記憶を守りつつ、未来へ向けた平和への文化的交流などを加える。・被爆の惨状を伝えるのはもちろん、世界平和の創造へ向けた未来への取り組みが必要である。具体的には、文学や音楽などを振興させ“平和文化事業の交流ができる街”にする。・「被爆体験を伝える都市」から「平和文化のモデルとなる都市」へ移行する時期にきている。アートを用いて平和と全ての人々の幸福に力を注ぐ都市として発信する。・被爆後の壊滅状態からどのように中四国の産業都市として発展していったのか、復興についてのポジティブな内容での説明があるとよい。それに関連した施設や企業、工場の見学ができると、ストーリーが出来上がる。・資料館の展示において、原爆により外国人もたくさん亡くなったことを伝えることにより、外国人にも身近に感じ、より関心を持って見てもらうことができる。・原爆だけでなく、世界の戦争など、色々な切り口から情報が得られるような方策も検討する。・広島は世界を見る窓、世界平和を国際的に考えることのできる平和拠点になるべきである。・核兵器の恐ろしさを伝えることが広島の役割である。これを、海外からの来訪者数の増加や、これらのニーズにどうつなげるのかの検討が必要である。・ネットでもたどりつかない情報を収集し、発信していく。・市内を歩くとき、ここが爆心地からどのくらいの距離にあるのか、理解できるような情報を加える。

▷ 発信方法

具体的な発信方法	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人には、文章表現に加えて、写真や動画配信を使用する方が理解しやすい。 ・その場所に行けば、そこで起こったストーリーを音声で聞くことができる仕組みをつくる。 ・例えば集約サイトをつくるなど、来訪者に分かりやすいように情報を一本化する。 ・SNSや携帯端末での情報発信や、ピースツーリズムに関するウェブサイトを構築することが有効である。 ・公共性の高い媒体と、SNSなど口コミが広がるような媒体の2面からの情報発信が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャルの世界では戦争の本当の恐怖は伝えられない。遺品や被爆者など実際のもものと出わせ、特に子どもたちの繊細な気持ちや感動、感受性、想像力を呼び起こす。 ・ツーリズムで感じたこと、考えたことを発信する場をつくる。 ・「伝える」動きだけでなく、「伝わるような環境」をつくる。行政側が提示するだけではなく、来訪者自身が探したり選んだりできるきっかけづくりを行う。 ・平和を愛する人びとを世界中から集めて巨大なピースフェスティバルを川を舞台に実施する。 ・8月6日に向けて「平和」への意識は高まるが、それは一時的である。継続的に「平和」について考えられる場所を設ける。 ・戦争をしている国々の様子について、来訪者(子ども)に身近に捉えてもらう工夫をする。 ・時間の経過とともに、伝えたいことが伝わりにくくなる。次世代にはどのようにしたら伝わるか、若い世代をとりまく環境や未来を見据えた方法にピントをあわせる必要がある。例えば、建物等に映像を映し出す技術であるプロジェクションマッピングにより可視化するなど、伝わるための手段を考えるべき。 ・来訪者の動線、その後のSNS発信、サイト閲覧等をマーケティングしたうえで、今後のプロモーションのあり方を検討する。

2 来訪者を迎えるにあたっての環境づくり(ルート設定等)について

▶ ルート設定にあたっての基本的な考え方

具体的な内容	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者は滞在時間に限りがあるため、短縮コースが必要である。 ・本通商店街は商業だけでなく、過去の広島を街を知る上で重要なポイントになる地点や、被爆の痕跡もある。 ・史跡等ばかりでなく、広島を地理的特徴であり美しさでもある川辺の魅力も伝える。ぶらりと歩ける平和で美しい場所があると、広島に対する考え方を深めることができる。 ・移動する間に、事前に次の訪問場所のガイドをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被爆した場所から安全と思われる場所へ逃げて行ったという証言をもとにした体験ができるようなコースを設ける。 ・皆実・宇品地区には、糧秣支廠、被服支廠、兵器支廠などが点在しており、郷土資料館をそれらを巡るための拠点とする。 ・こちらがルートを縛るよりも来訪者自身が数あるコンテンツの中から自由に選択しルート化できるよう、たくさんのコンテンツを提供する。 ・何を繋ぐのかという選定は重要である。被爆建造物の保存等の課題の中、解体の可能性のあるものには考慮する。 ・外国人について、事前に原爆について学ぶプログラムを受けているか、そうでないかによって、ツアーで巡る場所は変わってくる。例えば、原爆ドームしか知らない人には、他の被爆建造物の意味は分からないであろう。 ・単に気持ちが重くなるツアー内容ではなく、戦争当時や戦後の人達に起こった物語など、感動できる内容のものを伝える。

▶ ルート設定にあたっての考慮すべき事項

具体的な内容	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者は、広島に来ることがきっかけで、自分にとっての「平和」を考えたいと思っている。 ・被爆建造物は分散しているため、設定するルート外の他の重要な場所を巡ってもらう機会を逃さないようにする。 ・交通機関を自由に乗り降りできる一日乗車券を提示すると、施設に無料で入れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島へは、被爆体験を聞く人ばかりでなく来訪者たちも自分の心を癒したいと思って来る人もいる。市民は来訪者の聞き手となることも必要である。 ・平和記念資料館は、原爆の拠点施設としてもっと充実させる。また、レストハウスやおもてなしの空間を整える必要がある。平和記念公園をより居心地の良い場所にすべきである。 ・視覚障害者にはしっかりした音声情報で、聴覚障害者には目で見える情報に触れられるようにする。

3 迎える市民の積極的な関与について

▷ 迎える際の対応

具体的な内容

- ・被爆者にとって体験を聞く機会を設ける。
- ・来訪者が集う飲食店等のような場所を営んでいる人達が、ヒロシマについて質問されたら答えられるようにしておく。
- ・障害のある外国人に向けた多言語でのバリアフリー情報の提供が必要である。
- ・広島への来訪者に最初に接する、空港、駅等の係員の接客対応をよりよいものにしていくことが重要である。
- ・英語以外の外国語表記・通訳ガイド育成や、ピクトグラムの充実等が必要である。

▷ 関与のあり方

今後の対応事項

- ・市民が来訪者や研修生のホストファミリーとなることができる制度をつくる。
- ・民間レベルで交流し、市民を知ることができるような場をつくる。
- ・広島市民総ボランティア計画(市民が街角で外国人をおもてなしできるような仕組み)や平和ボランティア養成講座等を行う。
- ・「見ること、知ること、会うこと、新しい自分になること」というようなわかりやすいキャッチフレーズ(英語版も)をつくり、市民を巻き込んだ動きをつくる。
- ・来た人同士が話をできる場をつくる。さらには、その人たち同士をつなぐような人を養成する。
- ・広島在住の学生と議論をするなど、来訪者が平和についてじっくり考えることができる機会があるとよい。
- ・広島城のガイドの育成にあたって、学校教育現場において、当時の軍隊組織に関する内容が省かれている。そのためのガイド教育を充実させる。
- ・来訪者が、ガイドを見つけ申し込めるようなガイドの常駐体制を作る。
- ・海外からの平和教育旅行について、同年代の学生同士で学習し、ヒロシマのことを理解できるような仕組みを作る。
- ・ピースツーリズムに関与する団体等のそれぞれの取組内容について、意図する情報を伝えられたか、来訪者がどのように感じたか、不足があればどのようにするかなどの改善を繰り返し、改善内容を関係者で共有していく体制を作る。

市議会意見

1 情報発信について

- ▷ **発信方法** (平成29年11月21日(水) 経済観光環境委員会)

今後の対応事項

・72年前のことを追体験できるようにするには、説明板だけでは充分ではない。訪れる場所ごとにきちんと表示した説明板などを用意するほか、ガイドが直接説明できるような方法を検討する。

2 来訪者を迎えるにあたっての環境づくり(ルート設定等)について

- ▷ **ルート設定にあたっての基本的な考え方** (平成29年11月21日(水) 経済観光環境委員会)

今後の対応事項

・被爆前に市民の日常生活があった中で、突然全く未知の事態が起き、大勢の者が生活を破壊され、その後に大変な苦難の道を歩んできた。
原爆の被害の恐ろしさを、その場所に行くことによって体感し、考えることができるように設定し、遠方から旅行費用をかけて来た来訪者に、それだけの価値があったと思ってもらえるような方策を考える。

- ▷ **平和に関連する場所** (平成29年12月6日(水) 平成29年第5回定例会)

平和記念公園内の寄付樹木

・平和記念公園等には国内外から届けられた寄付樹木が数多く所在する。東京オリンピック・パラリンピックを契機に多くの外国人旅行者が来訪された際に、母国の先人達が寄付した樹木の由来や今の姿に触れることで、平和への思いを共有できるように配慮する。

- ▷ **ルート設定にあたっての考慮すべき事項** (平成29年11月21日(水) 経済観光環境委員会)

今後の対応事項

・ルートをしっかりと検証し、来訪者に喜んでもらえるようにする。

懇談会等から提案のあった平和に関連する場所の概要

1-1平和記念公園内 原爆ドーム	人類史上最初の原子爆弾による被爆の惨禍を後世に伝える、核兵器の廃絶と世界恒久平和の大切さを訴えるシンボル
韓国人原爆犠牲者慰霊碑	外国人も原爆に巻き込まれたことを示すもの
慈仙寺跡の墓石	平和記念公園の中に残る被爆時そのままの場所（土地のレベル、爆風により吹き飛ばされた上部）
峠三吉詩碑	文学により被爆体験を伝えるもの
国立広島原爆死没者追悼 平和祈念館	体験記や証言ビデオ等も見ることができ、静かに考えることができる場
原爆供養塔	身内の見つからない遺骨や氏名の判明しない遺骨(約7万柱)が納められている供養塔
マルセル・ジュノー博士記念碑	被爆直後の難しい世界情勢の中で敢えて救援薬品を届けてくれた大きな業績を記念するもの
原爆の子の像	県外や国外から来た人になぜ折り鶴が平和を象徴しているのか、佐々木禎子のストーリーを伝えるもの
平和の石塚	イングランドの最高峰のネビス山から届けられた石を広島地形のように並べて作られたもので、イギリスから来た方にとって心に残るモニュメント
レストハウス	地下室は被爆当時の姿を残している、爆心地から170mの至近距離で被爆した建物
相生橋	原爆投下の目標にされた橋
平和の灯	核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続ける、核兵器廃絶の願いの象徴
平和の門	フランスの芸術家と建築家が制作した、世界49カ国の言語で「平和」の文字が刻まれた10基の門
平和の鐘	核兵器と戦争のない世界の達成を目指し、「世界は一つ」を象徴する国境のない世界地図が浮き彫りにされた鐘
ローマ法王平和アピール碑 (平和記念資料館東館内)	広島を訪れたローマ法王ヨハネ・パウロ二世が、核兵器廃絶を訴えた「平和アピール」の中の一節が刻まれた碑
動員学徒慰霊塔	第二次大戦中、労働力不足を補うため、勤労奉仕に動員され戦禍にたおれた学徒の慰霊塔
平和の時計塔	人類史上初めて原爆が投下された時刻である8時15分に、毎日チャイム音により全世界に向け「ノーマアヒロシマ」を訴える時計塔
寄付樹木	外国人来訪者が、母国の先人達が寄付した樹木の由来や今の姿に触れることで、平和への思いを共有できるもの

1-2平和大橋	日本とアメリカという二つの祖国を持つ、イサム・ノグチが設計をした橋
1-3西平和大橋	
1-4島病院（島内科医院）	人類史上初めて投下された原爆の爆心地
1-5おりづるタワー	原爆ドームに隣接する、展望台や旅行者向けインフォメーションセンターを備えた施設
1-6本川小学校平和資料館	原爆投下の標的近くの小学校であり、原爆が非戦闘員を無差別に大量に殺す兵器である事が理解できる場所
2-1袋町小学校平和資料館	原爆投下の標的近くの小学校であり、原爆が非戦闘員を無差別に大量に殺す兵器である事が理解できる場所
2-2日西国街道（本通など）	商業施設が並ぶ広島市の繁華街であり、また、広島城築城以来の都市づくりの痕跡を残す場所
2-3旧日本銀行広島支店	被爆時の状況を紹介するパネル等が展示されているほか、市民団体の芸術・文化活動の発表の場としても活用されている被爆建物
2-4 NHK広島放送局平和モニュメント	NHKの旧局舎の一部のほか、平和記念公園の平和の灯と福岡県星野村の平和の火が灯されているモニュメント
2-5ラ・パンセ（裸婦像）	戦後の早い時期に作られた像であり、市民の文化への憧れが表れている象徴的なもの
2-6 広島アンデルセン	爆心地から360mで被爆した元々銀行であったのを改修し、ベーカリーとして使用されている建物。（平成30年現在改装中）
2-7 福屋八丁堀本店	戦前から現在に至るまで百貨店として利用されている被爆建物
2-8 頼山陽史跡資料館	被爆樹木や被爆の痕跡を残す石畳などがある、広島市の歴史・文化の展示施設
3-1縮景園	被爆直後の写真や、爆風で斜めになったイチョウの木がある庭園
3-2広島県立美術館	今広島市の市民が平和を享受し芸術を楽しんでいることを見てもらい、平和だから広島は素晴らしいと思ってもらえる場所
3-3世界平和記念聖堂	戦後の色々な方の努力やドイツ人神父などの尽力により、原爆犠牲者の慰霊のため、また全ての国の人々の友愛と平和のしるしとして建設された建物
3-4 京橋	親柱の上部が崩れる被害はあったものの、通行には問題なく、被爆者の避難路や救援活動の通り道として役割を果たした被爆橋梁

4-1広島城	旧大本営跡や陸軍第五師団司令部があった戦前のことや、中国軍管区司令部跡や被爆樹木を含む被爆時のことなどを学ぶことができる場所
4-2中国軍管区司令部跡	原爆投下第一報を発した場所
4-3大本営跡	日清戦争開戦後、明治天皇と共に広島城内に移された大本営の跡。
4-4ひろしま美術館	過去の人々の苦労の上に、今広島市民が平和を享受し芸術を楽しんでいることを見てもらい、平和だから広島は素晴らしいと思ってもらえる場所
4-5映像文化ライブラリー	平和関連の作品の上映などの取組がされている施設
4-6「Edmund・ブランデン詩碑 (中央図書館北側緑地帯)	イギリスの詩人エドモンド・ブランデンが、復興を遂げた市民への賛辞を美しい英文でうたった詩「ヒロシマ1949年8月6日に寄するうた」が刻まれた碑
4-7広島逡信病院	被爆建物の旧外来棟、資料室がある場所
4-8栗原貞子詩碑	文学により被爆体験を伝えるもの
4-9原爆犠牲米軍人慰霊銘板	外国人も原爆に巻き込まれたことを示すもの
4-10基町高層アパート	戦後のバラックが立ち並んでいた状況からの復興を示す場所
4-11 中央公園 加藤友三郎銅像	大正11年から12年にかけて行われた世界主要海軍国によるワシントン海軍軍縮会議を成功裡に終わらせ、世界に平和をもたらした功績を示す銅像
太田洋子文学碑	被爆直後から廃墟のヒロシマを描き続けた作家大田洋子の作品「屍の街」の一節を刻んだ碑
4-12広島市青少年センター 元廣島護国神社鳥居台座 跡	爆心地から至近距離にある被爆遺跡群
4-13中津宮 (なかつみや)	
5-1興南寮跡	外国人も原爆に巻き込まれたことを示すもの (留学生寮であった興南寮で被爆した東南アジアからの留学生)
5-2広大旧理学部校舎	爆心地から1,420mで被爆した、かつての学徒広島としての歴史を象徴する建物
5-3広島貯金支局	栗原貞子「生ましめんかな」の舞台となった建物があった場所

6-1饒津神社 原爆手水鉢	被爆建造物であり、また被爆前の歴史も案内できる場所
6-2猿猴橋	たもとに水上タクシーが発着する川の駅もある、戦前の姿に復元された橋
6-3水道資料館	日清戦争後、全国で始めて、旧陸軍の予算で牛田に上水道施設が造られた事を伝えるもの
6-4マツダスタジアム	市民生活の復興の象徴であるカープの現本拠地
7-1頼山陽文徳殿・多聞院	原爆の爆風によって変形した九輪や、被爆した木造の鐘楼が残されている場所
7-2広島市現代美術館	過去の人々の苦労の上に、今広島市民が平和を享受し芸術を楽しんでいることを見てもらい、平和だから広島は素晴らしいと思ってもらえる場所
7-3御便殿跡広場	大本営に併設され、明治42年(1909年)に比治山に移された御便殿(天皇が休息されるために設けられた建物)の跡地
7-4まんが図書館	はだしのゲンなど、まんが文化により効果的に広島のことを伝える作品を所蔵する図書館
7-5シダレヤナギ(鶴見橋東詰)	鶴見橋周辺ではたくさんの動員学徒が亡くなり、それを目の当たりにしたものとして訴える力のある樹木
7-6放射線影響研究所 (旧ABCC(原爆傷害調査委員会))	原爆放射線の人体に及ぼす医学的影響を調査する日米共同研究機関
8-1旧広島陸軍被服支廠	被爆時は兵隊が身に付ける小物等を生産、修理、保管、供給する施設で、現在も当時の倉庫など4棟が残る被爆建物群
8-2広島市郷土資料館 (旧広島陸軍糧秣支廠)	旧陸軍のことや明治初期の宇品港の開港などの歴史を学ぶことができる場所
8-3千田廟公園	宇品港を建設した千田貞暁の銅像が設置されている公園
8-4広島港	瀬戸内海の島影を見ながら静かにヒロシマのことを考える場
8-5旧陸軍棧橋跡	日清戦争や太平洋戦争時に多くの兵士が出征した場所
8-6広島陸軍糧秣支廠倉庫レンガ壁面 モニュメント	軍需物資を保管するため宇品駅のプラットフォームに沿って建てられていた倉庫の一部のモニュメント
9-1江波山気象館	外壁や窓枠など被爆の痕跡を残す被爆建物
10-1似島	検疫所などでかつて戦争に深くかかわった地
10-2江田島	広島島の島々の自然と暮らしを体感できる場

ルート案の現地調査結果

《現地調査の実施内容》

A 11月24日(金)「②被爆前・後の文化・文学を巡るルート」のうち、前半部分(めいぷる～ぷによるルート)
(広島城→ひろしま美術館→映像文化ライブラリー→エドモンド・ブランデン詩碑→西平和大橋→峠三吉詩碑→平和大橋)

B 11月28日(火)「①被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」、「③市民生活の復興を巡るルート」
(自転車によるルート)
(広島旧理学部校舎→郷土資料館→旧陸軍被服支廠→シダレヤナギ(鶴見橋東詰)→比治山公園)

C 11月29日(水)「①被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」(徒歩によるルート)
(原爆ドーム→本川小学校平和資料館→平和記念公園(旧慈仙寺墓石、レストハウス)→旧日本銀行広島支店→袋町小学校平和資料館)

D 12月1日(金)「市民生活の復興を巡るルート」のうち徒歩によるルート
(旧市民球場跡地(元カープ本拠地)→旧西国街道(本通)→広島アンデルセン→福屋八丁堀本店→世界平和記念聖堂)

共通事項

具体的な修正事項や対応事項	今後の改善が必要な事項
<ul style="list-style-type: none">各慰霊碑等の裏面には説明が書いてあることが多いので、これも見るような表示をする。英文表記なども加える。	<ul style="list-style-type: none">各箇所での説明表示が少ない。各箇所の説明や爆心地の方向・爆心地からの距離の明示が必要である。マップなどを作成する場合、爆心地からの距離を円を使って表記する。見学施設の展示方法等にバラつきがあるので統一する。

個別事項

A 11月24日(金)「②被爆前・後の文化・文学を巡るルート」のうち、前半部分(めいふる～ぷによるルート)
(広島城→ひろしま美術館→映像文化ライブラリー→エドモンド・ブランデン詩碑→西平和大橋→峠三吉詩碑→平和大橋)

具体的な修正事項や対応事項	今後の改善が必要な事項
<ul style="list-style-type: none"> ・広島城において、歩兵第十一聯隊跡、桜の池、被爆樹木(マルバヤナギ、ユーカリ等)を紹介する。 ・映像文化ライブラリー前にある、聖観音菩薩像は長崎の平和祈念像を造った北村西望の作品であり、紹介する。 ・西平和大橋北側の広島二中原爆慰霊碑を紹介する。 ・資料館本館の工事囲い部分に、耐震等の工事内容について説明表示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めいふる～ぷの広島駅のバス停が分かりにくい。 ・広島駅北口で2階からめいふる～ぷバス停に移動する際、どの階段を使えばよいか分かりにくい。 ・めいふる～ぷに乗ったまま車窓から観光する人もいるので、バス停に1周・区間の所要時間が分かるようにする。 ・各バス停に案内図を設ける。 ・平和大橋、西平和大橋にイサム・ノグチが設計したことの標記がない。

《現地調査の状況》



広島城内の被爆樹木



エドモンド・ブランデン詩碑



途中での意見交換

**B 11月28日(火)「①被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」、「③市民生活の復興を巡るルート」
(自転車によるルート)**

(広大旧理学部校舎→郷土資料館→旧陸軍被服支廠→シダレヤナギ(鶴見橋東詰)→比治山公園)

具体的な修正事項や対応事項	今後の改善が必要な事項
<ul style="list-style-type: none"> ・頼山陽文徳殿は、めいぷる～ぷのバス停から遠いため、自転車によるルートでまわる。 ・郷土資料館北側に糧秣支廠の煙突の基部が残されており、紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広大旧理学部校舎の説明板がない。裏側が雑草等が生えて手入れがされていない。 ・比治山展望台から市街地を望む時、周辺の樹木が視界を遮っており、剪定が必要である。

《現地調査の状況》



広大旧理学部校舎



旧広島陸軍被服支廠



比治山(平和の丘)

C 11月29日(水)「①被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」(徒歩によるルート)

(原爆ドーム→本川小学校平和資料館→平和記念公園(旧慈仙寺墓石、レストハウス)→旧日本銀行広島支店→袋町小学校平和資料館)

具体的な修正事項や対応事項	今後の改善が必要な事項
<ul style="list-style-type: none">・原爆ドーム前の説明板において、ドームの屋根が銅板だったため、炸裂時の高熱により溶け、爆風が吹きぬけたことにより、倒壊を免れたという説明を加える。・レストハウスの地下のどの場所に生存者がいたのかなどの説明を加える。	<ul style="list-style-type: none">・原爆ドームの説明パネルが古い。また、言語数を増やした方がよい。(他の場所も含めて要検討)・本川小学校平和資料館の展示方法の工夫が必要である。・レストハウス内の部屋を、原爆の子の像などを訪れるグループが使えるようにする。(他の場所も含めて要検討)・旧日本銀行広島支店の説明板が小さく、来訪者はこれが被爆建物であることが分からない。・袋町小学校平和資料館のビデオ放映の字幕の文字が小さく、展示の英語表記が少ない。

《現地調査の状況》



原爆ドーム



本川小学校平和資料館(外観)



本川小学校平和資料館(内部)

D 12月1日(金)「③市民生活の復興を巡るルート」のうち徒歩によるルート

(旧市民球場跡地(元カープ本拠地)→旧西国街道(本通)→広島アンデルセン→福屋八丁堀本店→世界平和記念聖堂)

具体的な修正事項や対応事項	今後の改善が必要な事項
<ul style="list-style-type: none">・旧山口銀行の被爆した壁面が、本通の建物の中に残されており、立ち寄ってもらう。・本通のパルコの壁面に旧キンビアホールの被爆した外壁が残されており、立ち寄ってもらう。	<ul style="list-style-type: none">・広島市青少年センター敷地内の鳥居の台座の説明板に、当時の写真が表示されるとよい。・爆心地付近では、民間の駐車場に並ぶ車列が爆心地の説明板前をふさぐので、観光客等の安全を確保することを含めて、関係機関と協議する必要がある。

《現地調査の状況》



爆心地



旧キンビアホール外壁



世界平和記念聖堂